

残したい

想いと風土



高山市
高根町

わらび縄作り手
かみしま

上嶋 さんの子

こんなに固いわらびの根を

素手で縄にするんやで大変やよ

じいちゃんやばあちゃんも

きつと苦勞したんやろうな



一度は消えた手仕事

高山市高根町日和田（ひわだ）地区。ここに産まれ育った上嶋さんのさんは、夫婦で名産品「タカネコーン」を生産するかたわら、一度は途絶えた伝統的な生活必需品である「わらび縄」を復活させました。

標高千メートルを超える日和田高原では稲が育ちにくいことから、稲藁でなくわらび根を使った縄作りが農閑期の仕事のひとつでした。昭和中期には作られなくなりましたが、丈夫で変質しにくいわらび縄を造園の資材として求める声があったことをきっかけに、祖父母が囲炉裏ばたで縄を作るのを眺めた子ども時代の記憶を思い出しながら、試行錯誤の上作れるようになったといえます。

高原で育つわらびの利用

高根町日和田地区では
高い標高でも育つ「わらび」から
手間ひまをかけて
食料や道具を生み出してきました。



わらびの根



わらび米粉

わらびの根からとれる澱粉は希少な栄養源。



繊維

わらび粉をとった残りの繊維を縄作りに利用します。



わらび縄

わらびの根から作られた固く丈夫な縄は、古くから造園や建築の資材として利用されてきました。手でより合わせ、2時間ほどかけて約6メートルの長さに仕上げます。



竹垣 (たけがき)

日本庭園の垣根に使う竹を縛って固定する用途など、雨風にあたる屋外でも使われてきました。

わらび縄の活用いろいろ

固い繊維をより合わせて
作られるわらび縄は
丈夫で変質しにくく
長持ちするのが特長です。



木舞縄 (こまいなわ)

家屋や蔵などの土壁の下地として塗り込める竹組を固定するために使われていました。

記憶を頼りに再現

日和田地区では昭和31年頃まで、和菓子などに利用する「わらび粉」作りが行われていました。粉をとった後の根を利用して作られたのが「わらび縄」です。

丈夫で水に強く長持ちするため竹垣などに利用され、京都の「桂離宮」など有名な庭園でも使われたようです。

冬になると囲炉裏を囲んで、祖父母と叔父がわらび縄を作っていた光景を覚えています。当時8歳くらいだったため、売り物に触ることは許されず、手ほどきを受けることはありませんまま、作り手はいなくなりました。

それから数十年、わらび縄は遠い思い出となっていました。平成25年頃に東京から来てわらび粉作りを

始めた方から依頼されて、挑戦することになりました。

作業は藁縄と同じ要領ですが、丈夫なわらびの根はよく叩いて柔らかくする必要があります。鉄製の機械では繊維が切れてしまうため、昔ながらの水車を利用して、木槌でなめらかにした材料を使用します。

家族の苦労を想って

固いわらびの根には悪戦苦闘しました。時には手がマメだらけになりながらも、6メートルの縄を仕上げて商品として納めることが出来るようになりました。

夜なべをして作っていた家族も、きっと大変だっただろうと、子どもの頃は分からなかった苦労を身を感じています。

いま、
伝えたいこと



日和田でわらび縄を作る者はわたしだけで、ほかには一人もありません。

興味がある人もあるもんで、講習会を計画したこともあったんやけど、実現しとらん。今はコロナ禍もあるで難しいな。固いわらびの根を素手で仕上げるんやで、手は痛くなるし、とても大変な作業やけど、欲しいと頼まれれば、元気があるうちは引き受けようと思っとるよ。